

目的 風合いの持っている美意識とは何か。歴史的・社会的・心理的・物理的等あらゆる角度から総合的に追及する。

方法 繊維企業や織物業者は、風合いを重要視している。実態調査から風合いの様々な受けとめかたを分類する。風合いは、歴史的・社会的な影響から美意識をどのように複合しているか。風合いのもつ心理的表現や物理的な分析は、どのような位置から美意識を統合的に解釈しようとしているのか。

結果 丹後ちりめんを具体例にとりあげてみる。伝統産業が下火にも関わらず、丹後ちりめんの魅力は根強く残っている。丹後ちりめんの風合いは、八丁撚糸機の撚糸で織ったシボが“美”を左右しているといっても過言ではない。「シボは、均一に並んでいるように見えるが不均一である。」と伝統技術者は分析している。シボの変化は、よりが一定していなためよくみると不規則である。がその不規則性が織物全体にわたる独特の統一感を持っている。丹後ちりめんは、不均一なものの統一美が風合いの美意識となっている。不均一なものの統合とは、世界の美学のなかでどのような位置づけを持っているか。日本の美意識の独創性を再認識する。